



No.2 土地利用型農業法人が取り組む加工業務用になじんの生産安定

- 活動期間 令和4年度～令和5年度
- 対象者名 (農)タカギ農産、(農)中塚ファーム育み、(農)中田アグリ、(農)サンファームあがと、(農)みらいす青生(5経営体)
- 課題の背景
 - ・にじんは水稲や大豆との作業が競合しないことから、美里町内の土地利用型農業法人による作付けが令和元年度から始まっており、年々面積が増加している。
(R5年度作付予定面積及び収量見込 夏作1.7ha 26t、冬作2.6ha 65t)
 - ・ほ場の排水対策による湿害回避、肥大性があり割れにくい品種の選定など、水田転作及び加工業務用途に適応した生産技術の向上を図る必要がある。また、天候の影響を受けることが多いため、適期播種や病害虫防除の重要性が増してきている。
 - ・水田転作に適した品種の目途がついたが、出荷時期延伸のための作型拡大、秋冬作の害虫防除、新たな販路の確保について検討が必要。

令和5年度

目 標	活動事項	普及活動のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ■ 生産技術の向上により実需者が求める品質が確保され出荷量の増加が図られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 生産技術向上支援 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 定期的にはほ場を巡回し、生育状況の把握、現地検討、防除資料の作成・指導を行い、栽培方法の確立に向け支援した。 ■ 一部で雑草や黒葉枯病の発生がみられたが、大きな被害はなかった。 
	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 栽培体系確立支援 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 収量調査から推定した10aあたり可販収量は1～2t、可販率は54～66%であった。 ■ 7月中旬の大雨とその直後からの高温により割れや腐敗が多く発生しており、商品として出荷できない他、出荷後もクレームや返品が生じ、販売量はさらに減少する見込み。 ■ 出荷量は計画(1.5t/10a想定)より少なくなる見込み。(9月中旬まで出荷)。 
<ul style="list-style-type: none"> ■ 複数法人による安定生産で実需者への継続出荷が可能になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 販路開拓支援 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新たな販売先の開拓、市場を通じた加工用としての販売ルートの確保により、全量を販売できる見込みが立った。 ■ 今作の夏になじんは計画通りの収量が得られない見込みであることから、新たな販売先への販売は見送っている。

意図する対象の変化（最終年度）

- 生産技術の向上により実需者が求める品質が確保され出荷量の増加が図られる。
- 複数の農業法人が安定して生産することで、実需者への継続出荷が可能となる。

数値目標：

加工業務用として12月末までに出荷する総量 R4：7%増、R5：15%増
70.2t(R3) → 75.1t(R4) (実績：50.8t) → 80.7t(R5)